

<p><研究課題名></p>	<p>RF-0902 (RF-092)</p>	<p>亜寒帯林大規模森林火災地のコケ類による樹木の細根発達と温室効果ガス制御機構の解明</p>		
<p><研究概要></p> <p>本研究は、森林火災後の回復過程にある亜寒帯林において、地表のコケ層の発達が樹木細根(直径2mm以下の根)の発達やCO2など温室効果ガス動態に及ぼす効果を定量的に解明することを目的とする。本研究では、亜寒帯林の代表的な森林タイプの一つである北米アラスカ州内陸部のマリアナトウヒ (Picea mariana) 林を研究対象とする。本研究では、アラスカ大学のポーカーフラット試験地およびカリブーポーカーク流域試験地において、1920年、1999年、2004年の火災による被害を受けたマリアナトウヒ林を調査地とする。これらの調査により、火災被害後約5年から90年の回復過程にあるマリアナトウヒ林におけるコケ類の機能、特に炭素動態に及ぼす効果が明らかになると期待される。</p> <p>(1) 森林火災後の林床植生成長速度と林床植生が樹木根の成長に与える影響の評価 サブテーマ1では、火災後年数の異なるマリアナトウヒ林においてコケ類の成長量、樹木細根の成長量の比較解析を進める。特に、火災後5-90年におけるコケ層の発達が樹木細根の成長量に与える影響を定量的に評価する。</p> <p>(2) 森林火災後の林床植生被覆を介した温室効果ガスフラックスとその制御機構の解明 サブテーマ2では、サブテーマ1と同じ試験地において地表面の温室効果ガス収支の解析を進める。特に、火災後5-90年におけるコケ層の発達にともなう地表面温室効果ガス動態の変動について定量的に評価する。</p>				
<p><研究代表者></p>		<p>野口 享太郎</p>		<p>独立行政法人森林総合研究所 四国支所 森林生態系変動研究グループ 主任研究員 (39才)</p>
<p>No.</p>	<p>サブテーマ名</p>		<p>氏名</p>	<p>所属機関名・部局・役職名</p>
<p>(1)</p>	<p>森林火災後の林床植生成長速度と林床植生が樹木根の成長に与える影響の評価</p>	<p>◎</p>	<p>野口 享太郎</p>	<p>独立行政法人森林総合研究所 四国支所 森林生態系変動研究グループ 主任研究員</p>
<p>(2)</p>	<p>森林火災後の林床植生被覆を介した温室効果ガスフラックスとその制御機構の解明</p>	<p>○</p>	<p>森下 智陽</p>	<p>独立行政法人森林総合研究所 四国支所 森林生態系変動研究グループ 主任研究員</p>